

読書案内

「構造改革で見る夢の行方は？」

経済学部助教授 山田浩貴

一 「失われた十年」とは

二十世紀最後の十年間、その過ぎた時を、日本では「失われた十年」と呼びました。多くの国々でシステム改革の実験が行われたにもかかわらず、日本社会は問題の先送りばかり。十年間、何もしなかったせいで、「もつどうしようもない」ところまで来た、ということです。

一九九〇年代、確かに、国と地方の借金はふくれあがり、国際社会でも日本の財政経済政策の評価は最悪。日本国債の格付けも下がるばかり。国・地方の政府債務残高は、二〇〇二年度で六九三兆円（予算ベース）、対GDP比で約一・四倍に達するとされています。

国や地方の借金は、言ってみれば税金の先取り。この借金を返そうと思えば、赤ん坊から高齢者まで、すべての国民が一人当たり五百数十万円、四大家族なら二千万円を超える額を、すでに支払っている税金に加えて、余分に支払わなければ返済できない勘定です。今すぐ払えないなら増税でということに、誰

もが納得しているように言われています。しかも、増税するなら消費税と、税種目までもう決められているかのようになり、喧伝されています。

「こんな借金してくれと誰も頼んだ覚えはない」と言ってみたいのですが、そんなことを口にすれば、「景気回復のための公共事業、福祉や教育サービス、医療費や年金も、使ったのは国民」と、袋叩きにあいそうです。これだけ借金をつくっても、あるいは、借金をしたからか、九〇年代には経済成長がマイナスの年まであって、不良債権は増えこそすれ、減る気配もない。失業率も過去最悪を更新し続け、五%を超えてしまいました。日本は、未だに不況から抜け出せず、自殺者が年間三万人を超える社会になりました。

いまや「失われた十年」の責任者探しをしている余裕もなく、「改革」こそが必要。「構造改革なくして、景気回復なし」。改革には当然「痛み」がともなうけれど、放っておいて「破滅」するわけにはいけません。マスコミでも、みんながそう言っているし…。さて、どうすればよいのか。

「経済学を学ぶのは、経済学者に騙されないため。」という有名な言葉もありますが、政府関係の経済学者の言うことは、昨日はああ言ったかと思えば今日はこう言ったと、その主張も説明も、めまぐるしく変わるばかりで、何を信じてよいか、まじめに説明を聞く気も失せてしまいます。「経済学者ほど信用ならない人間はいない。多くの人々がそう感じている。その理由を見つめることは比較的簡単だ。」という書き出しで始まるのは、金子勝著『長期停滞』（ちくま新書、二〇〇二年、六八〇円十

税)です。「失われた十年」の意味を、歴史的文脈のなかで考えたい人にお薦めの一冊です。

さて、現在の状況を、次のようにたとえることができるかも知れません。苦痛の原因も処方もわからないのに、突然、医者が言い出した。「病状は最悪、ここで手術するしかない。いままだ薬をしてきたのだから、痛みは覚悟の手術です。リスクについては説明済み。」「今すぐ手術するか、少し栄養補給をしてから手術するか。せいぜい選択肢はそれだけです。」「と。そんな時、患者はどうしたらよいのか？

「何か変」と思っても、知識も地位も権威もある医者に対して、「あなた、おかしいのでは。」と言えるかどうか。勇気を出して「ノー」と言ってみたら、「代替案を示さない。あなたには、ノーという権利はありません。努力もしないあなたたちのわがままにつきあう義務を、私は負ってませんから。」「こう言われてしまいました。治療費だけはガッポリ取っているというの。

二 知識社会の社会システム

困っている人に二者択一を迫るのは、ダマシの手法としては初歩的なやり方です。しかし、初歩的な手法も、「どちらもイヤなら、後は破滅するだけ。守ってあげないよ。」と、脅しをきかせば、以外に効果的です。「増税かサーピスカットか。どちらもノーなら破滅するだけ。」という選択肢の提示の仕方は、官僚や政治家にとって、もう伝統芸の領域です。「景気対策」か「構造

改革」の二者択一とグローバルスタンダードの組み合わせは、すり替えと脅迫の論理を組み合わせ、古典的手法のバリエーションのようです。

それはそうだが、さてどうしよう。冷静に考えてみたい人にお薦めの本が、神野直彦著『二兎を得る経済学』(講談社)新書、二〇〇一年、七四〇円十税と『人間回復の経済学』(岩波新書、二〇〇二年、七〇〇円十税)です(二冊だけ買うなら、お安い方でよいかもしれませんが。買わないと試験の時に困るよ、と一声掛ければ、これが二者択一と脅しの論理の一例です)。

『あれか、これか』ではなく、『あれも、これも』だと主張すれば、貪欲を戒めてきた日本国民は、虫の良い話だと一笑に付すかもしれない。しかし、『あれも、これも』と欲張らなければ、未来を取り戻すことはできない。『二兎を得る経済学』ははじめに、「あれもこれもとは、「景気回復」と「財政再建」のこと。

どちらかの二者択一を迫られて、「溺れるものは藁をも掴む。日本の掴んだ藁は、『レーガノミクス』(『二兎を得る経済学』一八ページ)だけれど、レーガン型改革をコピーすれば、日本は大失敗。ここは発想の転換を。学ぶならアメリカではなく、スウェーデン・モデルから、というのが神野の提案です。

「スウェーデンは景気回復と財政再建という二兎を追って二兎を得た。日本は景気回復という一兎を追ったけれども、景気回復にも財政再建にも失敗し、二兎とも得ていない。フランスとドイツは財政再建という一兎を追い、追った一兎は確かに手に入れたけれども、景気回復という一兎を追わなかった報いか

ら、政権が崩壊するという悲劇が演じられたのである。」

「『スウェーデンの銀行危機対応への国際評価は高く、アメリカのグリーンズパン連邦準備制度理事会議長も再三絶賛していた。そればかりではない。スウェーデン経済の成功に対して、IMFもOECDも称賛しているのである。』アメリカでは誰も日本の市場信仰を誉めてはくれない。それどころか誉めてもらおうと、日本が媚(こぼ)を売り続けてきたムーディーズまでも、スウェーデンを絶賛している。」(『二兎を得る経済学』四六―四七ページ)。

さて、学ぼうとするスウェーデン・モデルの核心とは何でしょうか。神野は、スタインモ(コロラド大学教授)の言葉をひいて、次のように主張します。

「スタインモは、スウェーデンを観察すると、高付加価値の知識集約型産業に特化しているため、租税負担率が高くとも、企業がフライトしない。なぜなら、知識集約型産業では人間の知的能力そのものを必要とするため、優秀な人材が集住しているスウェーデンから、企業はフライトすることはないからだ。』
本書のメッセージは、こうしたスタインモの言葉に尽きている。」

「とはいえ、アメリカンスタンダードのかわりに、スウェーデンスタンダードを受け入れようと主張しているわけではない。
／人間の夢と希望を行動基準にし、人間の社会をより人間らしい方向へと、社会のハンドルを切っても、社会は機能する。悲しみや苦しみを分かちあひ、やさしさを与えあっても、モラルハザードなどはたらかない。その例として、スウェーデンをあ

げているのである。」(『人間回復の経済学』「はじめに」)。

到来しつつある知識社会にむけて学びの社会を実現すること、それが神野の提案する改革プログラムの目指すものです。そのために、新しい社会的セーフティネットと社会的インフラストラクチャーをはるること、分権化と政府改革によって、強い財政を実現することなど、これまで神野たちが熱心に提案してきた改革案のエッセンスが、両書にはコンパクトにまとめられています。

神野は、「スタインモ教授は日本に来てはじめて、グローバルスタンダードという言葉のあることを知って驚き、それはいつたい何なのだと肩をすくめた。」(『人間回復の経済学』「はじめに」)というエピソードを紹介しています。グローバルスタンダードという言葉が怪しげな言葉であることは、最近では誰もが言うようになりましたが、神野の紹介するスタインモ教授の「驚き」も、「日本は、グローバルスタンダードを前にして、選択肢の幅は大きくない」という議論の立て方自体が、一つの思い込みであることを気づかせてくれるエピソードです。

この種の思い込みは、誰かが思い込ませただけれど、思い込まれている人々は、その事実気づかずに、「これが自分の考えだ」と思い込んでしまうところが、ミソです。グローバルスタンダードといえはアメリカ、あるいは、せいぜいヨーロッパの強国、経済といえは市場、市場の評価は社会の評価、という連想に人が囚われているとき、ヨーロッパの中小国のしたたかな生き様に触れることによって、硬直的な思い込みから自由になる手がかりを得ることができそうです。

三 日本型「学び社会」の非人間性

神野の本には、スウェーデンの生涯学習システムが紹介されています。「学びの社会スウェーデンでは、『いつでも、どこでも、誰でも、ただで』学ぶことを保障することが、『学びの原則』（『人間回復の経済学』一三二ページ）であるというのです。そして、学ぶことは人間性を豊かにし、競争ではなく協同の社会システムを支え合う基盤を強くするだけでなく、来るべき知識社会の生産力の基盤も強くする。日本社会の現実と比べて、うらやましい限りのモデルです。

「競争社会をめざす日本では、自由時間とは、仕事と仕事とのあいだの待ち時間でしかない。待ち時間では、古典を熟読玩味することはできない。読み流し、いつでも読むことをやめてもいいような書物しか読めない。いつやめてもいいような、むなしい孤独な快楽にふける遊びしかできない。」（『人間回復の経済学』一七一ページ）。他方スウェーデンの「学習サークルでは参加者の意志のもとに、語学、美術・音楽などの芸術、社会科学、自然科学、文学や歴史などの人文科学などと幅広い学習プログラムが提供される。仕事を終えた人々が飲酒、パチンコ、ゲームセンターなどで快楽にふけることもなく、自主的に学習サークルに通ってくる。人間として高まる、学ぶことにまさる喜びはないからである。」（『人間回復の経済学』一四九ページ）

日本社会に対する、神野のいらだちと嘆きはよく理解できますが、その対比によって、あるべき処方箋を実感するには、神野の描くスウェーデン・モデルと日本社会の現実と、相当の距

離を感じてしまいます。その距離は、埋めるにはあまりにも広くて深そうです。神野のいらだちを聞いても、なぜか心がひいてしまうのは、もうすでに、「競争というサタン」に身も心も奪われているからでしょうか。それとも、他に原因があるからかもしれません。

日本も世界に知られた「学び社会」です。しかし、教育というもつとも人間的な現場で、もつとも非人間的な出来事が生じているという事実は、今の日本社会では、もはや公然の秘密でもないかもしれないからです。

神野が言う「学び社会」という言葉に、「ついでにいけない」と感じる人には、上野千鶴子著「サヨナラ、学校化社会」（太郎次郎社、二〇〇二年、一七五〇円十税）が、解毒剤としてお薦めの一冊です。

少しデータが古くなりますが、村川一朗著『日本の官僚』（丸善ライブラリー、一九九四年、六二〇円）の巻末に資料として、「日本の政界及び官界のエリート」が付されています。政治家や高級官僚、公社や特殊法人のトップなど、政界や官界のエリートたちの学歴を知ることができます。

この資料で、歴代大蔵省事務次官（現財務省事務次官）の出身大学をみると、昭和一九年三月現在から平成五年六月現在の事務次官三七人について、出身大学が示されています。京都大学法学部出身の一人を除き、残りの三六人は、すべて東京大学法学部出身者で占められています。これは、大蔵省事務次官に限る傾向ではありません。この資料からわかることは、「日本の政界及び官界のエリート」は、そのほとんどが、東大法学部を出

ていると言っても、間違いないということです。

確かに、東大法学部に入るチャンスも国家公務員試験も、形式的には万人に開かれています。しかし、マクロ的にみると、

「…日本の大学の偏差値序列と学生の出身家庭の年収の序列とがみごとに一致するという相関が、現実には確かめられています。東大生の出身家庭の平均年収は八百万円、女子学生にかざると一千万円という数字があります。」(『サヨナラ、学校化社会』三九ページ)。このよく知られた事実を、上野は、ピエール・ブルデューの紹介とあわせて、指摘しています。

『サヨナラ、学校化社会』は、「読めばおもしろい」タイプの本で、要約や紹介を受け付けない類の書物ですが、この本の便利なところを一つ挙げると、本文にでてくる人物や概念について、簡潔な注がつけられているところです。

例えば、ピエール・ブルデューがでてくれば、そのページの下欄に小さな文字で、「ピエール・ブルデュー、…、フランスの社会学者。本書編集中の、一月三日、訃報が流れた。『ル・モンド』紙の見出しは『ブルデュー、闘う知識人』。その形容のとおりブルデューは文化を支配階級と被支配階級の闘争の場と見なし、そこに自覚的に参戦していく学者であった。代表作『再生産』(パスロンとの共著、一九七〇)では、経済資本と並ぶ『文化資本』の概念を唱え、学校教育が平等化をもたらすどころか階層を再生産する役割を果たしていることを明らかにした。…。」と簡潔な注記がうたれています。

ちなみに、上野自身の著作である『家父長制と資本制』につけられた注は、「上野千鶴子の代表作の一つ。七〇年代以降のマ

ルクス主義フェミニズムの理論を批判的に整理し、『資本制Ⅱ階級支配』一元論の社会主義婦人開放論と、『家父長制Ⅱ性支配』一元論のラディカル・フェミニズムを統合したもの。…。この本をきっかけとして上野ゼミに入る学生も多い。(『サヨナラ、学校化社会』一二―一三ページ)。なお、「的確で生きのいい注を書いてくださったのは、東京大学大学院に在籍中の金田淳子さん」(『サヨナラ、学校化社会』「あとがき」)だそうです。

内容紹介がしづらい書物と書きましたが、『学校化社会』という言葉の定義だけ、紹介しましょう。

「上位者を上位へ、下位者を下位へ再生産するカラクリのなかで、学校はなにをやってきたかという、学校の価値を再生産してきました。／学校の価値とは、明日のために今日のがまんとするという『未来志向』と『ガンバリズム』、そして『偏差値一元主義』です。だから学校はつまらないところです。いまを楽しむのではなく、つねに現在を未来のための手段とし、すべてを偏差値一本で評価することを学習するのが学校なのですから。／その学校的価値が学校空間からあふれ出し、にじみ出し、それ以外の社会にも浸透していった。これを『学校化社会』といいます。」(『サヨナラ、学校化社会』五〇ページ)。

気が付けば、紹介してきた本の著者、神野も上野も東大の学生です。そのせいではないと思いますが、『人間回復の経済学』や『サヨナラ、学校化社会』は、取り上げられている話題はいへんおもしろいのですが、時に、物事が概念的に整理され過ぎていのように感じる場合があります。

そのまま食べればおいしいのに、これは四川料理のカクカク

の承譜とか、懐石のテイストを取り入れたフランス料理とか、種々の蘊蓄つきで無理矢理型にはめ込まれた料理を食べさせられても、頭はすっきりしても、おいしさは減じてしまっそうです。そういう不満をお持ちの方には、次の一冊がお薦めかもしれません。小倉千加子著『女の人生すごろく』（ちくま文庫、一九九四年、五六〇円＋税、初出は一九九〇年）です。小倉は、上野と同じく、日本のフェミニズム論者です。

この本が書かれてから、かなり時間がたっていますが、いまま読んでも十分おもしろく、コワイ落ちまで付いていて、日本社会の病理を鋭くえぐり出しているようです。上野のように、何でも概念化して、整理して論じるのも一つの方法ですが、この本は、普通に生きる人々に、より深い共感を引き起こしてくれるかもしれません。もちろん、読後感の違いは、上野は社会学、小倉は心理学という、アプローチ方法の違いによるものかもしれません。

四 「個」化する社会の多様性

読書案内のタイトルを、「構造改革で見る夢の行方は？」としましたが、『サヨナラ、学校化社会』や『女の人生すごろく』を読むと、日本社会の病理とその病理を再生産するシステムを壊さなければ、構造改革案への実感なんか、なかなか湧いてこないというのが正直なところです。

ただ、日本社会の変化の方向性については、見えてくるものがあるかもしれません。日本社会も、社会の個化（個人化）が

進行していて、その変化への対応いかに、構造改革の行方もあるようです。

先に、スウェーデン・モデルに触れましたが、スウェーデンの家族政策には、次のような特徴があるとの指摘があります。

「スウェーデンの家族政策の第一の特徴は、性別役割分業否定の男女平等政策を土台に据え、社会の諸制度の単位を『家族』でなく『個人』に置き、また、子育てを社会的に位置づけ、労働生活と子育ての両立が可能ないように育児休業制度や保育事業などが整えられている点にある。」

『第二の特徴は、同棲やホモセクシユアルなど、婚姻以外のカップル関係に対して、法的保護がされている点である。一九六九年、時の法務大臣クリングは、…新しい立法は可能な限り、それぞれの男女の結合形態と道徳観に対して中立でなければならぬ』と述べ、この〈中立性のイデオロギー〉がそれ以降の家族法の基本理念となった。」

第三に、父母の婚姻関係の有無が子どもの法的・社会的地位にほとんど影響せず、父親の確定や親の養育責任追及が法律婚の枠を超えてなされ、両親の離別後の子どもの監護・居住・交流が〈子どもの最善の利益〉の視点から考慮されていることである。〔善積京子「家族——多様な生活の実態」『スウェーデンにみる個性重視社会——生活のセーフティネット』二文字・伊藤編著、二〇〇二年、桜井書店、二五〇〇円＋税。〕

小泉純一郎首相も福田康夫官房長官も安部晋三官房副長官も鳩山由紀夫民主党党首も（いずれも役職名は二〇〇二年八月現在）、政治家の多くが二代目三代目です。八月一五日の敗戦を

挟んでいるのに、政治の世界でも、世襲と言う言葉が生きています。また、田中真紀子元外務大臣の扱いを見れば、政治の世界にこそ、ジェンダーバイアスが強くあることがわかります。

政治やマスコミに根強く存在するジェンダーバイアスについては、北原みのり「なぜ『人格』がバッシングされるのか」『世界』二〇〇二年六月号、岩波書店 がわかりやすく問題の核心を示してくれます。北原のエッセイは、彼女が主催するホームページでも読むことができます。

小泉内閣も、一時は八〇%を超える支持率を誇っていました。最近では、支持率だけは普通の内閣になってきたようですが、構造改革よりも、国民を一つの価値観で統合しようという政策ばかりがやけに目に付きます。

就任以来、迷走に迷走を続けるコイズミ改革の「夢の行方」に憂慮と恐れを抱くとき、「人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」（日本国憲法第14条）、という当たり前の言葉を思い出ししてしまいました。現代の日本社会で、この言葉がもつ意味を、考えてしまいます。個が個として、社会関係の中で生きられるためには、個の多様性を保障する社会システムの実現が必要です。タテマエではなくその実質の実現を、夢の行方として描きたいものです。

（地方財政論）